

ハバロフスク市は、ハバロフスク地方の中心都市。
2000年からはロシア連邦極東管区の本部もここに置かれている。

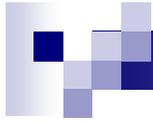


ハバロフスク地方の人口
140万人以上



人口密度
1.8 人/km²





«INTERMEDICOM»
International Medical Agency

Russia, Khabarovsk, Karl Marks st. 41 – 31; Tel: +79241099208; E-mail: nab@mail.ru



弊社の使命

- 日本とロシアの病院間協力を支援する。
- ロシア市民が世界レベルの先進医療を実現している日本の病院で医療を受けられるよう支援する。



ビジネス対象

1. 日本とロシアの病院間協力を企画・運営する。
相互に
 - ・患者の紹介と受入れ
 - ・スタッフ（専門家、事務職員）の研修
 - ・トレーニング
 - ・コンサルティング
2. 先進医療を実施する日本の病院においてロシア市民が医療を受けられるよう支援する（渡航・移動一切、通訳、保険、その他の法律・財務に関する各種業務を代行）。



ビジネス主体

1. 日本とロシアの医療機関、医療スタッフ、事務スタッフ
2. 先進医療を実施している日本の病院で医療を享受するロシア市民



弊社業務のふたつの基本的方向

1. 病院間協力の促進

■ 病院間協力とは：

- 協力関係にある病院間で、情報交換に基づいて相互に患者を受け入れる。
- パートナーとなる病院の特性に応じて医療・事務スタッフを交換し、教育・研修を実施する。

■ 病院間交流の促進とは：

日露の医療スタッフが患者の利益のため協力してハイレベルの治療を実現できるよう支援する。



弊社業務のふたつの基本的方向

2. 医療ツーリズム

- **医療ツーリズムとは：**

ロシア市民を観光の一環として日本の医療機関に受け入れ、検査・治療を行う。

- **渡航・移動一切、通訳、保険、その他の法律・財務に関わる業務を代行する。**

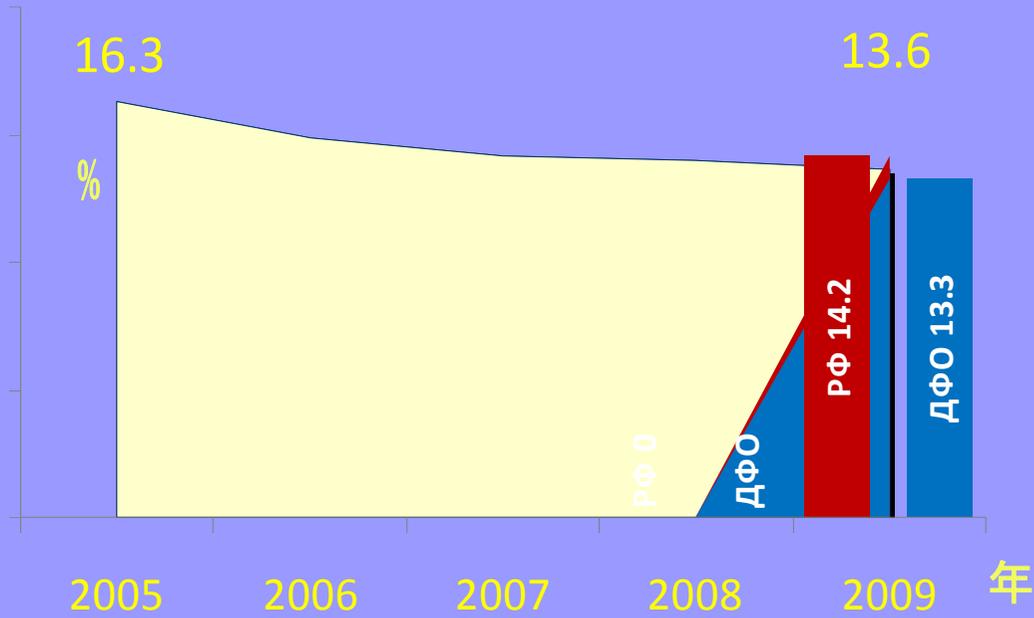


2011年度の基本戦略

ロシア極東地域に民間医療を根づかせ発展させる。

その際、日本の保健システム（医療・保健管理制度、技術、設備）を基本とする。

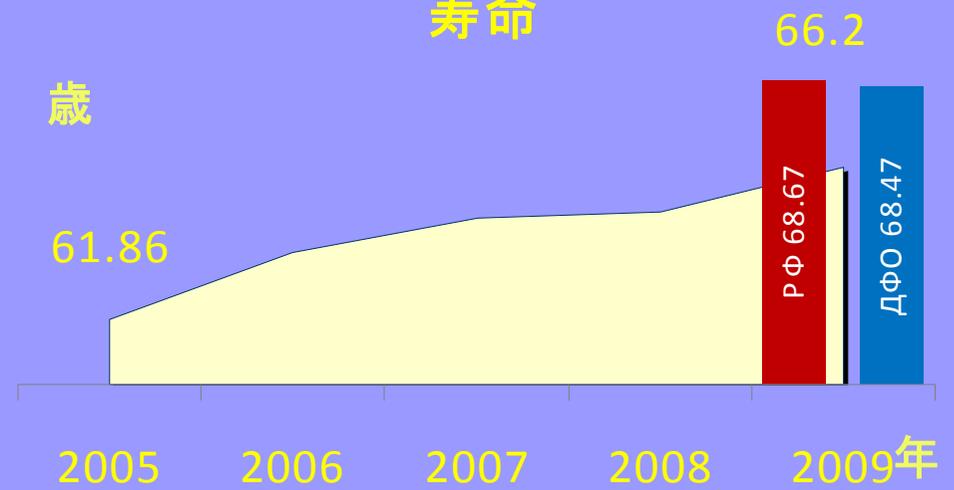
死亡率(1,000人あたり)



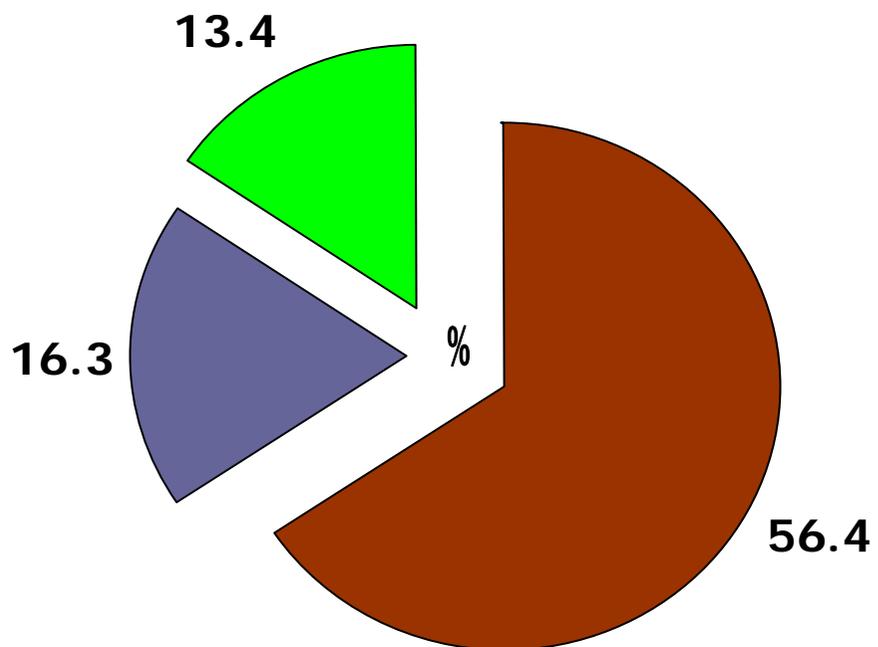
赤：ロシア連邦全体

青：極東管区

寿命



主な死亡原因

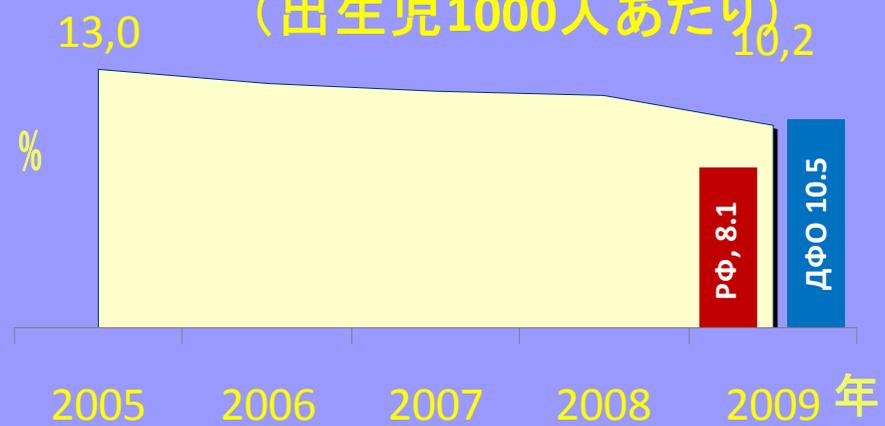


■ 循環器系疾患

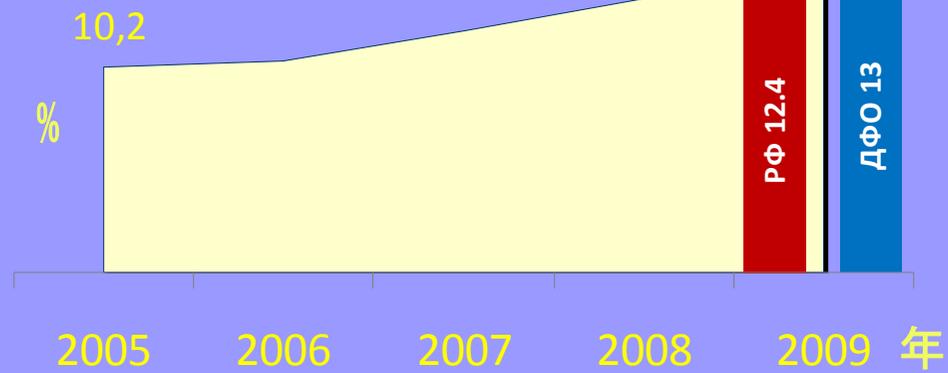
■ 外傷、中毒その他の外的要因

■ 悪性腫瘍

乳幼児死亡率 (出生児1000人あたり)

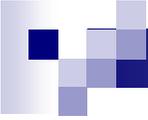


出生率(人口1000人あたり)



赤：ロシア連邦全体

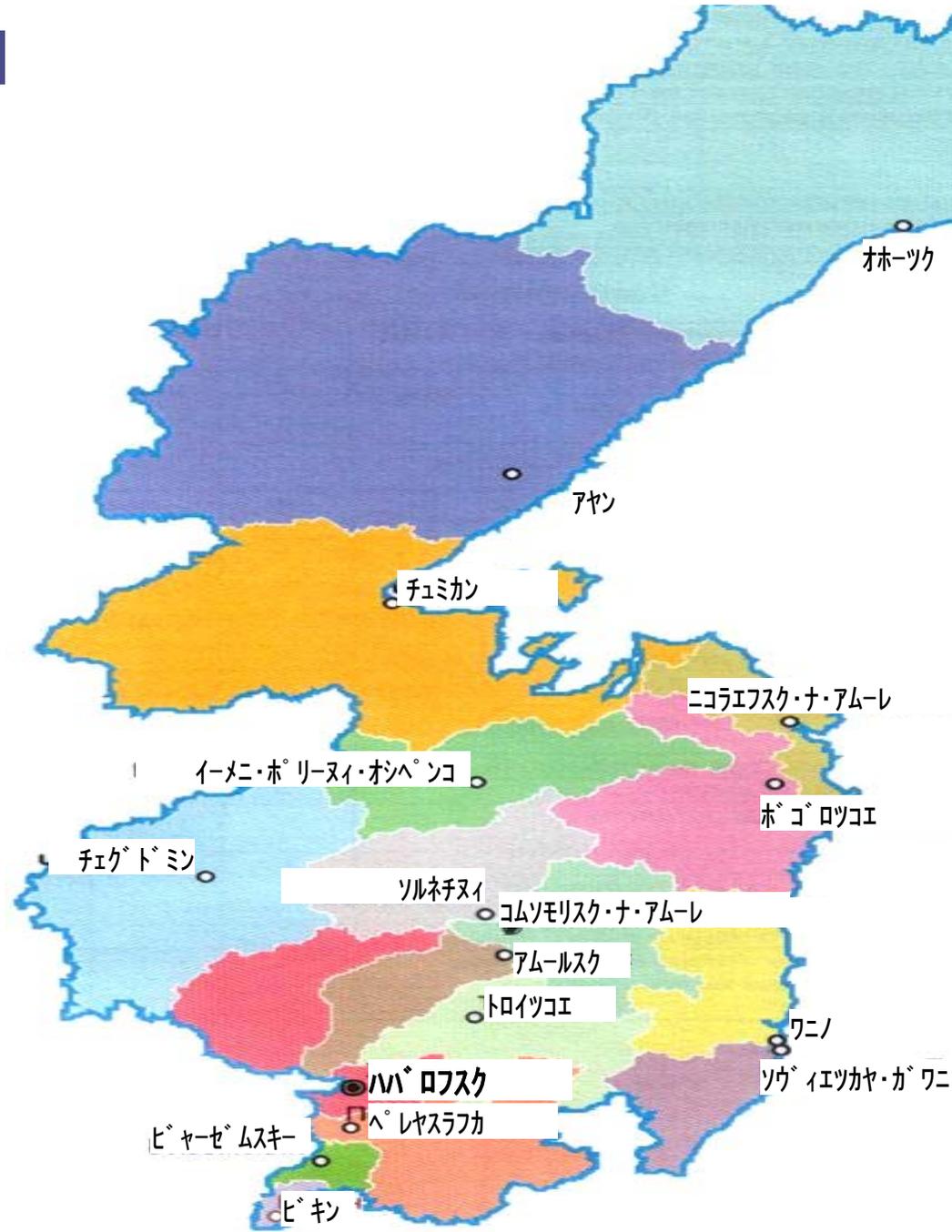
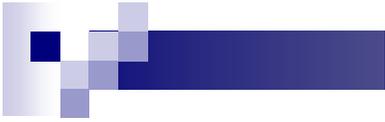
青：極東管区

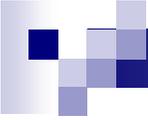


ハバロフスク地方政府特別保健プログラム

- 2007-2010年 「健康世代」 計画
- 2009-2015年 ハバロフスク地方人口増加計画
- 2009-2011年 社会的重大疾患予防撲滅計画
- 麻薬中毒蔓延・麻酔剤非合法取引防止総合対策
- 2011-2017年 ハバロフスク地方健康部門情報化計画
- 2010-2012年 ハバロフスク地方ヒト免疫不全ウィルス疾患（HIV感染）予防基本方針

総予算	2010年	81,700,000ルーブル
	2011年	207,900,000ルーブル

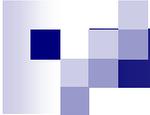




ハバロフスク地方（極東地域）における 国立保健機関の基本問題

保健医療の施設・設備の老朽化

- 医療施設・機関の約半数が全面修復又は建替を必要としている。
- 医療機器の大半が10年以上使われている。



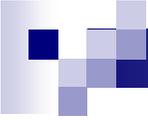
ハバロフスク地方（極東地域）における 国立保健機関の基本問題

現在の強制医療保険制度が定めている診療報酬では
公的基準に見合った医療サービスのコストを賄う
ことができず、その結果、良質な治療をすべての
患者に対して保証することができなくなっている。



ハバロフスク地方（極東地域）における国立保健機関の基本問題

医療従事者、特に医師の給与水準が低い。

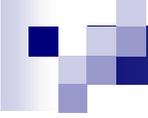


ハバロフスク地方（極東地域）における国立保健機関の基本問題

保健機関の財政的な仕組みに無駄が多く、

- 費用圧縮
- 支出削減
- 医療の質の向上

に対するモチベーションが働かない。



ハバロフスク地方（極東地域）における国立保健機関の基本問題

罹病率の増加、住民の高齢化に伴って、医療、とりわけ先進医療に対する住民のニーズは高まりつつある。

にもかかわらず、これまで検討してきたいろいろな問題が障害となっているため、医療はその質においても受けやすさにおいても、現在のニーズに対応していない。

ロシア極東地域における医療発展の中期予測 (2020年まで)

発展の 方向性	ロシア極東地域における医療発展	
	ロシア単独の場合	日本の協力を得る場合
ハイテク設備の輸出	<p>CT,MRI,医療用コンピュータ、血管造影装置などの複雑な設備をロシアは現在事実上完全に輸入に頼っており、国産のものは皆無である。</p> <p>今後は、発展途上国など海外で生産されている種類のハイテク製品の輸出を強化しなければならない。</p> <p>しかし、医師など医療スタッフの職能レベルが高いものとはいえないため、ここ5-10年間は、この形態による輸出の伸張は制限されたものとなるだろう。</p> <p>医療スタッフの職業能力を開発しなければならず、これには、教育のみならず、「インセンティブ」を考慮することなどが必要となるが、それは国の保健制度の手に余る課題であろう。</p>	<p>日本が、ロシア国内にハイテク製品を輸出し、医療スタッフを教育し、ロシアの患者に日本医療の現代水準についての情報提供を行い、日本の技術についてのロシア人の親和性を醸成する。これは、ロシア極東地域で将来にわたって進出、生産、導入を継続するためにも必要である。</p>

ロシア極東地域における医療発展の中期予測 (2020年まで)

発展の 方向性	ロシア極東地域における医療発展	
	ロシア単独の場合	日本の協力を得る場合
医療 ツーリズム	<p>国庫による医療費負担の削減、住民の支払能力の向上によって、医療への個人支出は増大する。</p> <p>医療ツーリズム（イスラエル・欧州・中国・韓国などへの）はますます発展する。</p>	<p>国庫による医療費負担の削減、住民の支払能力の向上によって、医療への個人支出は増大する。</p> <p>日本の先進医療 地理的な近さ（隣国） 高レベルの医療サービス ↓ 潜在市場</p>

ロシア極東地域における医療発展の中期予測 (2020年まで)

発展の 方向性	ロシア極東地域における医療発展	
	ロシア単独の場合	日本の協力を得る場合
医療への IT技術の 導入	ロシアにおいても先進国にさほど遅れをとらずに情報技術が広まるものと期待される。	日本に有利な分野。 この分野では、医療単独でなく情報・技術・通信企業との連携による進出も見込まれるべきであろう。

ロシア極東地域における医療発展の中期予測 (2020年まで)

発展の 方向性	ロシア極東地域における医療発展	
	ロシア単独の場合	日本の協力を得る場合
使い捨て 医療製品市 場開拓	<p>将来の数年間に市場が倍増する可能性はある。</p> <p>医療廃棄物は危険度の高い、特別なカテゴリーに属する廃棄物であるため、廃棄・処理技術がこの部門における市場開拓を妨げる最大要因となる。</p>	<p>日本にはこの種の製品の廃棄・処理に関する膨大で先進的な技術蓄積がある。</p> <p>大規模で質のよい市場が期待できる。</p> <p>日本は、処理技術を有利な条件で提供するとともに、高品質の製品をロシア市場に投入することができる。</p>

ロシア極東地域における医療発展の中期予測 (2020年まで)

発展の 方向性	ロシア極東地域における医療発展	
	ロシア単独の場合	日本の協力を得る場合
ロシア市場におけるインド、中国などの国々からの低品質医療製品の増大	<p>インド、中国などの国々からの低品質で医療製品が市場においてシェアを増大すると、その低価格によってロシア企業を、それら企業が伝統的に維持してきたニッチから排除するばかりでなく、技術レベルと品質のより高い製品のメーカーをも排除してしまう。</p> <p>こうした傾向を特に強く主張するのは国立の医療機関の医師らである。</p> <p>設備や薬剤を自由に選択することができるのは一定のブランドを有しており、市場でも一定の位置を保持することができる民間病院だけになってしまう。</p>	<p>「設備や薬剤を自由に選択することができるのは一定のブランドを有しており、市場でも一定の位置を保持することができる民間病院だけになってしまう。</p> <p>日本は（ロシアの先進的医療関係者と協力して）ロシア市場においてリーダーシップをとるべき。</p>

ロシア極東地域における医療発展の中期予測 (2020年まで)

発展の 方向性	ロシア極東地域における医療発展	
	ロシア単独の場合	日本の協力を得る場合
有料医療サービスの成長速度増大	<p>最も一般的な評価によれば（当面5年間の）総成長率は25～30%。即ち、専門家は一様に市場成長率が高いと指摘している。</p> <p>民間医療市場開発の一般的傾向は民間病院の大規模化と多様化。</p> <p>単科診療所に代わって、多機能な医療センターが多く出現する。</p> <p>医療サービスや薬には金を支払ってもよいという患者意識が高まる。</p> <p>年成長率は最大13-16%に達することがあるものと見込まれる。</p>	<p>動向は左におなじ。</p> <p>加えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 極東地域における有名ブランド医療センターネットワークの開設 ・ 日本式民間病院運営システム ・ 日本製医療機器 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ロシア医療サービス市場を席捲</p>